

「世界の天候」で用いる平年値の更新について

平成 23 年 5 月 18 日

気象庁では、「世界の天候」ページで使用する世界各地の平年値について 1981～2010 年の観測値による新しい平年値を作成し、平成 23 年（2011 年）5 月 18 日より使用を開始しました。

今後、平年差・平年比の算出や異常気象の判断などには新平年値を利用します。

世界の天候に関するデータや各種図表類についても、一部を除き新平年値で算出したものに更新しました。（※）

また、「異常天候に関する図表」を「世界の天候に関する図表」から分離し、別コンテンツと致しました。

※2011 年 5 月 17 日以前に発表された各種情報（全球異常気象監視速報など）、および各種図表類のうち 2011 年 5 月 17 日以前に掲載された「異常天候に関する図表」につきましては、掲載時点で使用していた旧平年値（1971～2000 年の観測値から作成）に基づき判断・作成されたものであり、新平年値を用いての再作成は行いません。これ以外の図表は、新平年値を用いて算出したものに更新しました。

新平年値について

- 平年値は、その時々気象（気温や降水量など）や天候（冷夏、暖冬、少雨、多雨など）を評価する基準として利用されると共に、その地点の気候を表す値として用いられています。気象庁では、西暦年の 1 の位が 1 の年から続く 30 年間の平均値をもって平年値とし、10 年ごとに更新しています。旧平年値は 1971～2000 年、新平年値は 1981～2010 年の観測値による平均値です。
- 世界の新平年値の計算には、気象庁が蓄積している地上月気候値気象通報（CLIMAT 報）データ（1982 年 6 月以降）および GHCN(Global Historical Climatology Network)データを使用しています。CLIMAT 報データ及び GHCN データの両方が利用可能な場合は、CLIMAT 報データを優先して利用しました。

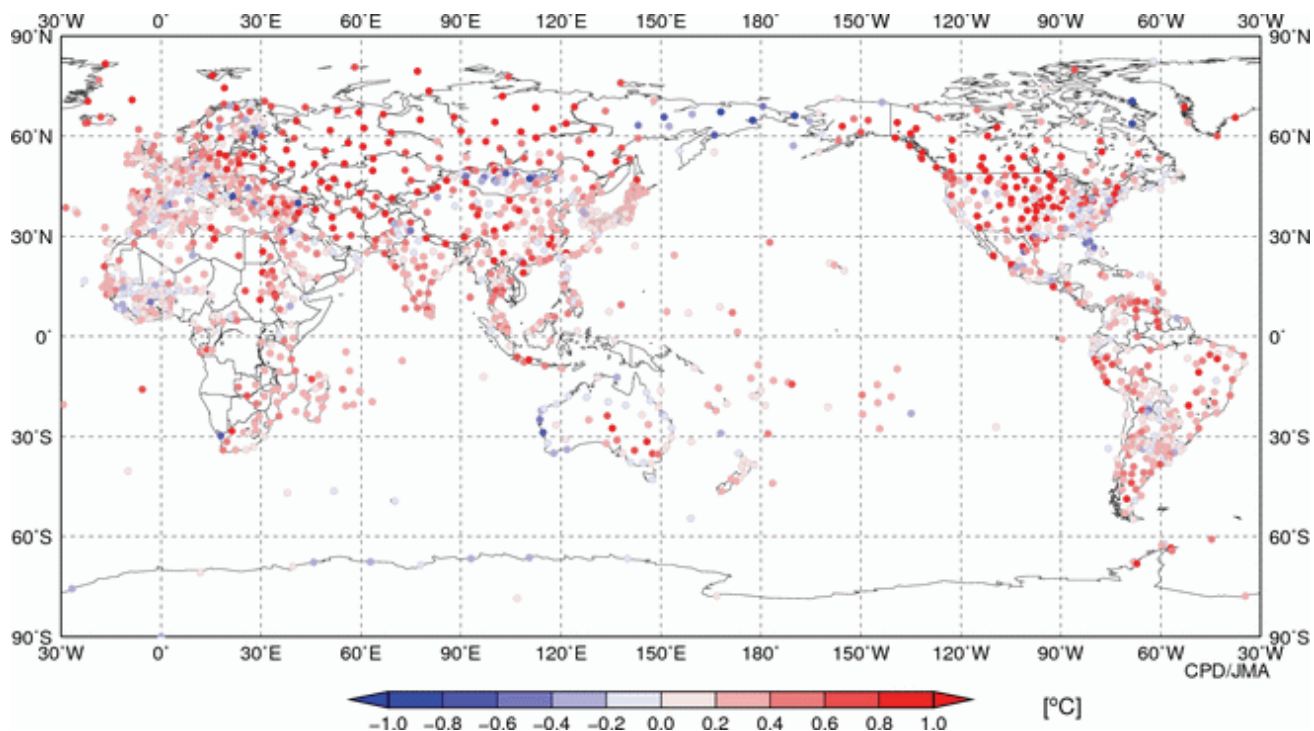
※GHCN データ：米国海洋大気庁気候データセンター（NCDC）が世界の気候変動の監視に供するために整備したデータ

- 世界の新平年値が作成された地点数は、月平均気温で 2549 地点、月降水量で 2658 地点となりました（旧平年値では、月平均気温で 2025 地点、月降水量で 3800 地点）。また、アンゴラ等の一部の地域では観測データが十分ではないため平年値が算出できませんでした。
- 旧平年値と比較すると、月平均気温は各月とも多くの地点で新平年値の方が高くなりました。ただし 1 月のオーストラリア西部や東シベリアなど、月や地域によっては低くなる場所もありました。月降水量は地点や月毎のばらつきが大きく、はっきりした傾向は見られませんでした。

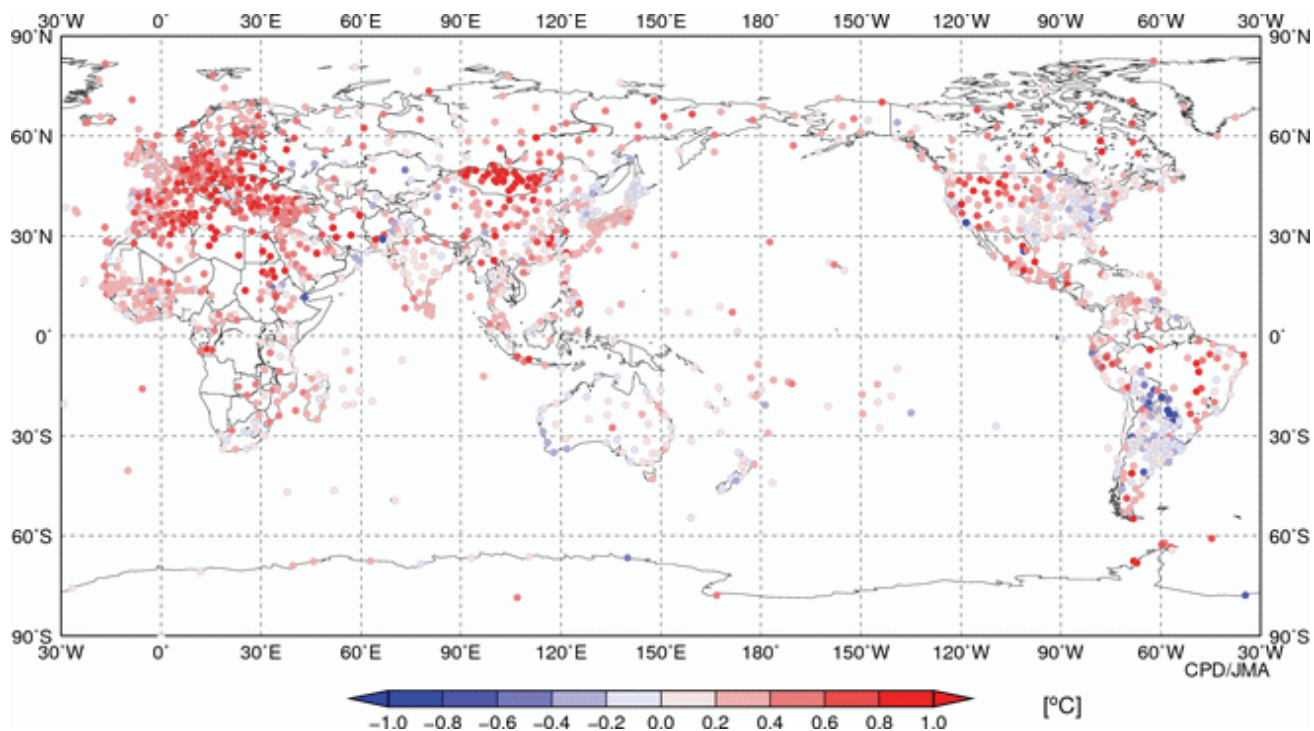
例として、1 月と 7 月の月平均気温、月降水量の比較図を掲載します。

月平均気温の新平年値（1981～2010 年）と旧平年値（1971～2000 年）の比較

○1 月の月平均気温の新旧平年値の差 （新平年値－旧平年値）℃

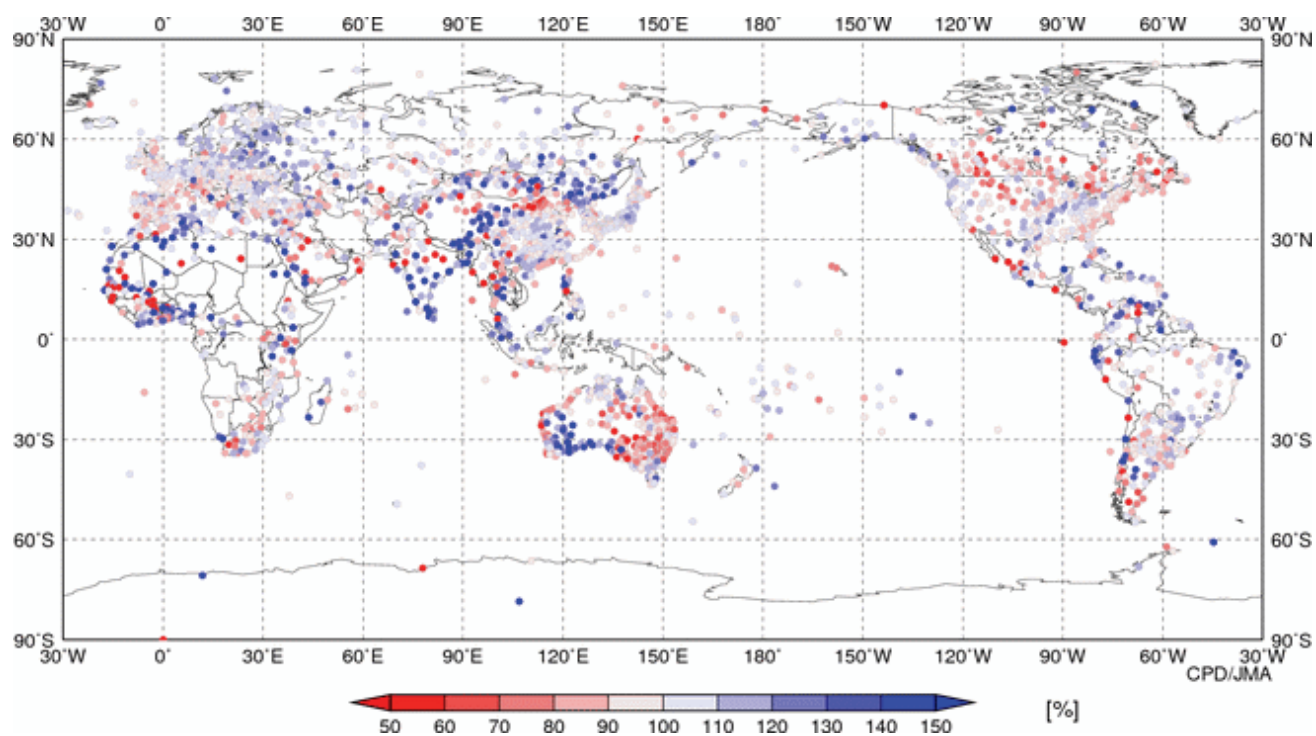


○7 月の月平均気温の新旧平年値の差 （新平年値－旧平年値）℃



月降水量の新平年値（1981～2010 年）と旧平年値（1971～2000 年）の比較

○1 月の月降水量の新旧平年値の比率 （新平年値÷旧平年値）%



○7 月の月降水量の新旧平年値の比率 （新平年値÷旧平年値）%

